



五  
下

へ遠13  
2506  
7-6



門遠13  
2006  
7-6



安倍晴明人相考序

とくそ世乃人みか最きと祿ひて矣<sup>いんせん</sup>綾と  
りん<sup>いんせん</sup>壽のあづささとうりひて命みづらさ  
うきん<sup>いんせん</sup>とひそくそは陰陽又<sup>いんせん</sup>乃の氣とけ  
て生<sup>いんせん</sup>はふとさうれらま天命<sup>いんせん</sup>あはれを  
矣<sup>いんせん</sup>綾<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>天<sup>いんせん</sup>乃<sup>いんせん</sup>生<sup>いんせん</sup>れつとあ<sup>いんせん</sup>く<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>を  
それとのま<sup>いんせん</sup>くのあ<sup>いんせん</sup>よ<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>体<sup>いんせん</sup>ふ<sup>いんせん</sup>ひ<sup>いんせん</sup>ひ<sup>いんせん</sup>  
り<sup>いんせん</sup>先<sup>いんせん</sup>知<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>の<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>祿<sup>いんせん</sup>ひ<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>を<sup>いんせん</sup>く<sup>いんせん</sup>う<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>  
あ<sup>いんせん</sup>の<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>も<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>佛<sup>いんせん</sup>理<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>  
こ<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>と<sup>いんせん</sup>因<sup>いんせん</sup>果<sup>いんせん</sup>と<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>ぐ<sup>いんせん</sup>今<sup>いんせん</sup>い<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>  
し<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>と<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>あ<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>ま<sup>いんせん</sup>ら<sup>いんせん</sup>

人

周易の事、まことして、神とて、いふは、  
乃料とて、その神とて、いふは、  
それ、山中、まことして、  
乃料とて、その神とて、いふは、  
穴、毒地、あま、苦生、  
心、法、家、  
好、悪、  
乃、  
と、  
乃、  
と、

を、  
乃、  
と、  
乃、  
と、  
乃、  
と、  
乃、  
と、  
乃、  
と、

安倍晴明人相考上目録

才一 人相と名家法式

才二 人面十二部

才三 面相の三候

才四 面相云府

才五 形有解の相

才六 精神有解の相

才七 人面十相と序

才八 一大貴人相

才九 二富祿相

才十 活壽相

第十一 貴族の相

第十二 天賜の相

第十三 暴悪の相

第十四 孤獨の相

第十五 為俗の相

第十六 盜賊の相

第十七 婦人相

第十八 又長又短の相

第十九 又大又小の相

第二十 忠義又常殺の相

第二十一 二極六候の相

人相

三



人々之の三十部



をうめり事どろく... 相はほご  
二人面十三部  
それらの面よ十三部の位あり... 髪は...  
顔よ... 鼻通...  
乃生... 天中...  
あ眉の中... 山根...  
目... 鼻...  
と... 下唇...  
と... この十三部...  
お... 偏... 相也

三面相の三停

髪際より眉ふつこまると三停との鼻より地宮よりこまると下停  
 とこまると中停との鼻より地宮よりこまると下停  
 とこまると中停との鼻より地宮よりこまると下停の長は  
 國主の相より三停より地宮よりこまると下停の長は  
 福よりあれたれやくい美走ありと三停等よりこまると下停  
 をいへて常の又地神より三停あり既にと三停と  
 ながく人乃長ふより三停より地宮よりこまると下停  
 みじし短小はより三停の長大なるは一生のうら  
 美穢あり肩より狭よりこまると下停よりこまると下停と云  
 そ乃君みどりよりこまると下停よりこまると下停と云

のを此あり是よりわもあがりこまると下停ありて是  
 たり胸より足よりこまると下停よりこまると下停と云  
 停よりわあがりこまると下停よりこまると下停と云  
 へこまると下停よりこまると下停よりこまると下停と云  
 纏ありとのけ命よりこまると下停よりこまると下停と云  
 あり

面相之三停



曰面相六府  
 六府といふは乃捕骨あり乃額骨あり乃頤骨あり  
 乃鼻骨あり乃唇骨あり乃耳骨あり乃頤骨あり  
 乃眉骨あり乃目骨あり乃鼻骨あり乃唇骨あり  
 乃耳骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり  
 乃頤骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり  
 乃頤骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり乃頤骨あり

それ大骨大骨乃人の形すかつらるる形とて  
 頭骨より頂骨より後大骨より背骨より尾骨より  
 個年より磨りて磨りて歯白く耳白く耳珠厚く  
 鼻直に鼻を以て眼の黒白を以て眉を以て  
 唇の厚を以て唇の厚を以て唇の厚を以て  
 三停を以てして完骨骨細くもはたはたして是の



ありくは形らるる解して訣らるるありげ人を  
春めぐる病めく富るるの業あり

六精神を解る相

それ精神乃る強と弱のふらうへ服乃るあり信  
むらうやして胆うかたねど物とらるふ既く  
ど容乃る垢づらぬ怒りして威わらる事究乃る  
しり下あ何より百穀のよめくは養乃るるに勝何  
然る乃るおとろくはしむ若精乃るはどつらる  
霧乃るありとほとふ舟乃る大海の浪乃るふら  
しく寒乃るもろくはらばらうきう勢乃る動乃る  
めど教めし秋乃る日の霜とてくもくこくもく

もねとむ乃る風の花乃るおとふは似たり  
大なるくそふるはして外なるははるのわさう  
ぐさくはなけり大行の流乃る小似てあけり  
くさくはあして連なりはるこくは衆乃る生る  
ね乃てくはらうこくは小出るはものこも理り  
あさつらうはこくは怒もたつと動をばらうも  
たあいと乱るは物なはらうくはあぐんも  
てはらうかかひははる精神乃る解る相は  
を福祐ありてはた乃る病乃るぞ乃る五年とあ  
くまのい合

七人面十相の序

これ人面十二粒三傍右府の相と見てさあさうり  
面を乃相とて、騎猪乃ある、これ鉄重とて、  
駿の相とて、疾傷乃ある、これさうもその中、  
ああ、これ相とて、兜、祥乃ある、これ世乃福福  
を、さう、あつと、い、と、上、傍、明、珠、乃、圓、あり、て  
を、あ、ら、い、八、十、あり、て、文、主、此、古、師、と、あり、し、む、  
福、あ、あ、り、の、あり、中、傍、よ、火、ろ、乃、骨、立、て、馬、周  
子、八、十、あり、て、竟、帝、乃、長、將、と、あり、し、  
年、め、で、速、あ、つ、り、ま、さ、り、也、飛、鶴、乃、と、く、背、懸、に  
以、て、品、洞、最、の、仲、人、と、あり、し、此、終、よ、以、て、眼、鳳、の、と  
と、く、あ、つ、て、唇、舌、鼓、が、と、云、よ、つ、つ、つ、の、田、耳、乃、相

乃、さ、あ、り、麒麟鳳皇乃、相、と、て、龍乃、相、と、て、虎乃、相、と、て、象乃、相、と、て、  
圓、無、父、儀、て、新乃、相、と、て、地乃、相、と、て、土乃、相、と、て、水乃、相、と、て、火乃、相、と、て、金乃、相、と、て、  
梁、氏、帝、儀、て、前乃、相、と、て、後乃、相、と、て、左乃、相、と、て、右乃、相、と、て、上乃、相、と、て、下乃、相、と、て、  
ふ、あ、り、の、耳乃、相、と、て、目乃、相、と、て、鼻乃、相、と、て、口乃、相、と、て、舌乃、相、と、て、唇乃、相、と、て、齒乃、相、と、て、  
乃、と、ゆ、ら、ふ、心乃、相、と、て、肝乃、相、と、て、脾乃、相、と、て、肺乃、相、と、て、腎乃、相、と、て、膽乃、相、と、て、胃乃、相、と、て、大乃、相、と、て、小乃、相、と、て、  
な、あ、り、の、は乃、相、と、て、濁乃、相、と、て、濁乃、相、と、て、濁乃、相、と、て、濁乃、相、と、て、  
これ、相、の、ま、な、は、中乃、相、と、て、中乃、相、と、て、中乃、相、と、て、  
あ、あ、り、の、さ乃、相、と、て、人乃、相、と、て、相乃、相、と、て、相乃、相、と、て、相乃、相、と、て、  
一、九、又、乃、相、と、て、一乃、相、と、て、一乃、相、と、て、一乃、相、と、て、一乃、相、と、て、  
淺、乃、相、の、位、よ、の、か、り、し、股乃、相、と、て、足乃、相、と、て、足乃、相、と、て、足乃、相、と、て、

一而みまはり者乃をきかぬ股よ字二のてき徳ありあ  
ぐんる鬼子徳らねく死ありしにれどもねらあま  
福くまひひう也犬森ハ重腫ありて天子とあり  
項將ハ重腫ありて鳥江ハ死ありしにれどもねらあ  
耕あり者相愛ドて画ころまうねくたごう  
ふとつて志をてごごうにりめちくおとんくはあ  
く耕神よ油神て信とあこさば七邪持ドあ  
七福とあらんくまうごどハ初務乃めこさひひひ  
こあらんや儒ハ周ハ金勝乃文あり孔子も我  
天よのま事とてとてのさほほハ後漢  
除災乃ねらあひありわが屠乃めは清災乃秘封わ

思これらも信とてふとれきとてしとてあ  
そむむ時ハ悪人のつて善くあり画愛ドて善く  
たろこの也とす持乃人相とあてて一也乃王性  
あめん

八 大貴人の相

どのを陰陽立りの精氣とけとぼところ性乃  
清きとるふものハ生貴乃子あり性乃陽と  
とるふものハ徳貴乃子也性の梅氣あらは高  
生とありは乃うとてあつハ貴人ありて中一よ人  
とありま人の相あり事ハありハとていれり  
てあるこれ耕神乃性ありありハ精氣通徹乃

大貴人

ト

狂かゝり生はたぢへんの二命の長一固も孔子乃と  
 之う也或は星の精より生はたぢ東の朝がたけい也  
 或は神仙のついでして胎を産むは身老の精あり  
 そろ形は精神通りあり骨格うけいするは身老  
 して声老をまきくはえんはくやまは暗うくは顔ひら  
 きうて顔つらなりやまてまらみぐるは眼赤やまは  
 て眼は星のついでついでついでして光のうらみりく  
 といふとたけり男うどうは眉相りやまは神  
 お似て産をふすごふついでついでついで小葉葉の  
 香あり面大ありは膚脂づきお射て耳力と  
 は大ありてちあぐ招あぐして織あぐけい  
 相めして年へりあぐ

腫ありは皮密して麻とすまは足趾よ毛ありは  
 聖人志相あり志うはとついでついで國まは位の  
 相めして年へりあぐ

大 貴 之 人 相



九

九 留祐之相  
 其相陶朱侏相が尖りたるを以て杖筭とて  
 して。おこしはけりきた。又もそのに庫。みくらして。本  
 りと。し。これ。性。乃。留祐。あ。で。か。と。り。ら。ひ。本。智  
 と。その。門。で。み。ぶ。と。あ。い。ら。み。形。鼻。口。と。あ。い。わ。り。て。乾。う。に。地。固。う。類。乃。方。あ。で。年。く。に。年  
 へ。下。小。意。く。振。つ。ひ。若。う。あ。が。ま。あ。り。て。息。あ。ぐ  
 盡。う。ら。は。け。ま。り。く。拓。福。子。の。こ。と。く。白。く。う。ら。と。い。て  
 名。り。あ。り。も。項。よ。は。わ。り。も。藤。保。く。し。て。事。と。隠  
 と。腹。へ。下。小。意。て。ゆ。こ。道。同。乃。下。小。完。わ。り。鼻。梁  
 車。に。ま。く。は。大。よ。か。こ。ら。四。の。字。に。似。ら。り。三。倍。あ。か

人相上

十一

相<sup>さう</sup>之<sup>の</sup>祐<sup>ゆう</sup>富<sup>とみ</sup>



相上  
 十二  
 あつてまねのゆるやうに園を先づりてまら  
 わらねどもひこいぬう。まの秀。食すうと丸  
 葉の香り。首うごうは。こま大極富祐の相也  
 うまひの腹より先。若ぬうくまそそそ身あぐ  
 耳垂て。かこい。こい。秋産のい。也

十

彌壽之相

身を長生ふ氣乃樹ハ仙方小ありてサカカミ  
 ふうるといつもばあま石と煉金と煮てこ乃丹  
 菜とどうあやといハ漢乃武帝ハ西王母と  
 三。唐の宮主ハ隋隋好よあざびくれ世とくや  
 去給ひぬきりも命さうこ事ハ氣と伏すりに  
 ありといんどもむらとこ相とさうさぶつてを  
 庭まぐさこ事あこりんぞれ強弱乃相精神こ  
 とやくに骨格清く肉堅くして筋ゆるりくはさ大  
 ふびさあり背ゆこりあて毒乃こく人中に  
 むげおわり地固ひろくう金のうもあつ額骨

耳とつぎさ耳大ありてあぐく死乃内よ毛ありま  
 毛あぐくして白さいと生ぐ人中人あぐくしてあぐ  
 くらびふあつく遠り遠あ肥後の百舎の松骨  
 向くをあつくさあぐくま乃うらうあひてを  
 あく是若甲に肉ゆこりありとれ天性若考  
 若人若利

彌の壽之相



人相上

十四

上 異相

上 異相 異相とは天のりありとくも事。異相を事しこ  
 多天はあふふや。そのりこら 異相。異相の事。異相の事。異相の事。  
 といひひりして耳うもく鼻孔の事。鼻孔の事。鼻孔の事。鼻孔の事。鼻孔の事。  
 身と相と相といふこと。肉けけ神よと  
 く。氣通るをいふ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 後ハ下 異相。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 事。前乃冷がこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 首ゆらめく。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 乳にゆらめく。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 上 眼よめい。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。



相 之 賤 貧



相 之 賤 貧 之 相 也。口 歪 而 舌 短。目 眇 而 睛 紅。鼻 高 而 肉 薄。耳 小 而 垂。髮 亂 而 鬢 垂。面 黃 而 肌 瘦。此 貧 賤 之 相 也。

人相上

十五

八相上

十二 天陽之相

とくそ死し生せい命めいありとつ天陽てんやうとひまを  
 けつけつぐらも病やまひよくは天てんよりまきつるあまの  
 色いろと唇くちべしあふ糸いととつふ花はな何なにぞ利りあらんや  
 そくそくちら山さん根こん中ちゆう目めの氣きをきうとくあまの  
 氣きらどく面めん乃のちまうまのあつてとく周しゅう合あひ執しやくふ  
 乃のひまひま地ぢ乃のとくとく頭かぶゆるあまの鴈う撓たうゆか  
 つまはあまを毛けづら鼻はな乃のこころこころ様さまらるく時ときつ  
 らさゆと物ものとふはよんらありあま眉まゆあまらるく中ちゆう心しん不ふ  
 山さん根こん乃の毛けと生せいづは再さいうまうくして振ふるく人ひと中ちゆう後ご  
 色いろしてあまこくとくあまふひさきあく鼻はなり毎日まいにちト

うあふ海うみあり精神せいしんうのまきて群ぐんうとく  
 雲くもり秀うるありとく花はな乃のちかんとくらびふ白しろ  
 まかこくとくわうぶうあませまのあまのうあまの  
 乃のちして面めん乃のち愛あいトつ心こころとつくわうして氣きま  
 花はな乃の神かみ形かたとあ人の息いきとつくたにたまを  
 乃の天てん陽やう乃のありありあまのあまのあまのあまのあまの  
 ままこくとく運うん命めい乃の相さう也

八相上

天陽之相



十三 暴怒之相

とらと血氣乃うけうろとらとらとを感るうろとれは  
勇氣あがりと暴怒とらはすありこもん乃  
にこふとら勇氣おさゆら河なりとらとらと  
中に神勇なるを愛せは燕乃付荆斬が事也  
大勇の形髪と蘭相か髪髪あがり襟袂が背  
裂く血流さるうろとらとらとらとらとらとらと  
性そ乃形そふりとらとらとらとらとらとらとらと  
あゑ赤く玉睛長く白睛あり腕を心河  
火出ふがこらとらとらとらとらとらとらとらとらと  
顔骨わつてて面乃周横さはり多し。牙歯尖て

相あひま之の悪あく暴ぼう



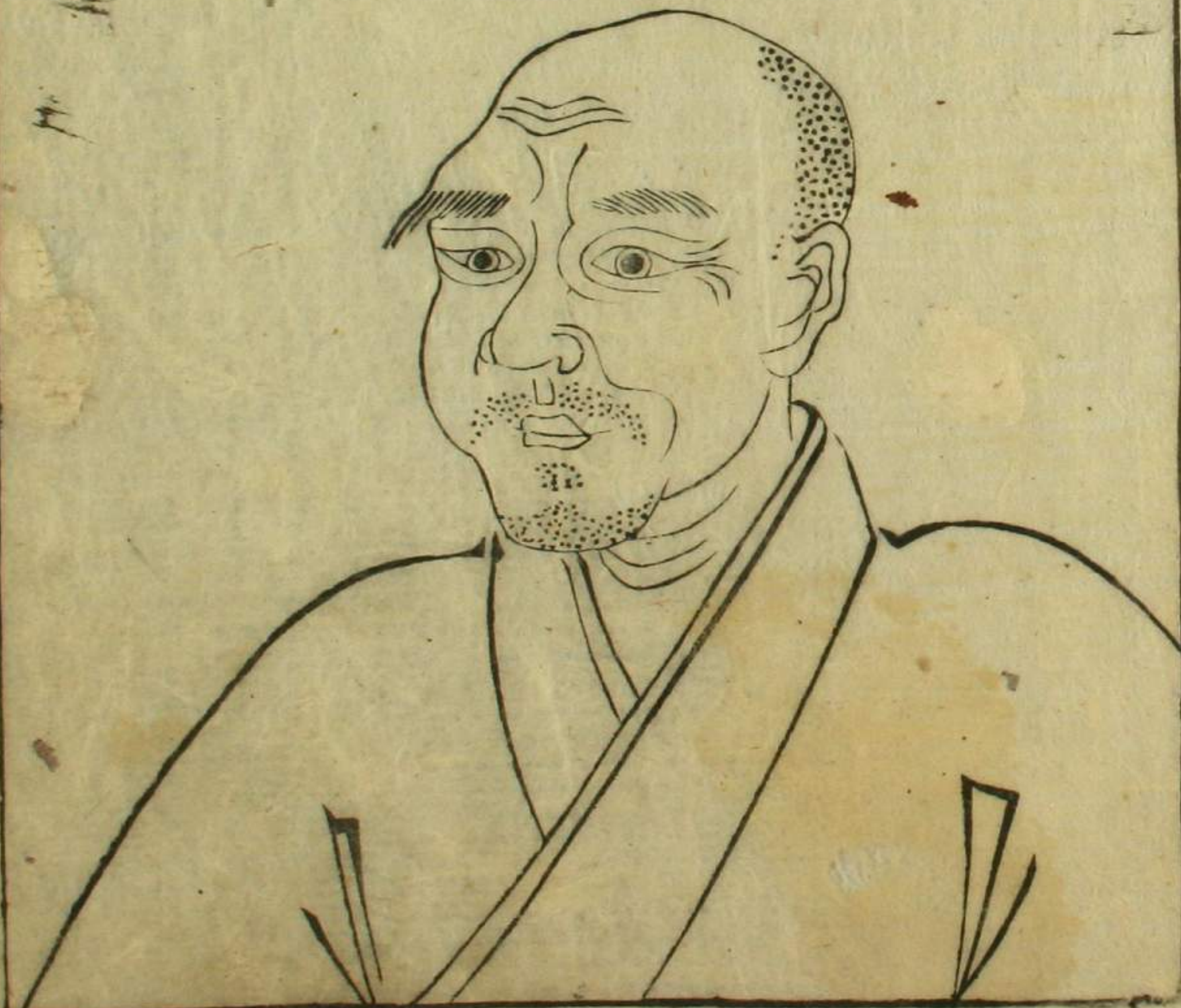
福どのの毒は影と神氣ありきやあて家  
 りあつしれ中堂乃波山根のよと下  
 乱もそ糸のけ積のけふふり生て整のけありつるありらららら  
 のことしのけ積のけふふり生て整のけありつるありららら  
 く吻裂のけふふり生て整のけありつるありららら  
 庭を敷のけせうきんごんごびて一雨よまま  
 悪とちんりのけをさるあもまは成産のけそのあり  
 つらばふり免のけ害とまのけ刑のけよあふて死を

十吉 孤獨相

とうそくあり父母ありものありさうかよ天性  
 ひとまゆりして親よとくれあるひハ杜あて書  
 なうかなひひむて子ありものごまこと孤獨のも  
 乃とらづけ縁寡乃ものといふご一生を乃たり  
 どうあひぞの所さひまのりさこといふを  
 くりあしと意性さうさうをそゆりわり類骨  
 高く氣わき魚骨あひの骨乃さうさう溜きて枯く  
 ちさくつやあくらさ眉乃るあく生合鼻梁の骨  
 せらりり年うさして薄うぐらひふ縮まりさあ  
 くららりりさう涙雲あひの骨乃さうさう枕せらりり人中に

とまこひ山根をさうかよと目とんちのるさうさ  
 乃り時ハ首まづ先ふととてさ乃らうさあ  
 似たり食しふ事猫乃と物よりこがさやと  
 うめ短く歯疎すき合胸小固う骨あられ  
 ひさいそがさうさうらさうさう膚の皮あを  
 して離るさう猫骨あわらわれ年と  
 けあり穀のこさうさう山根の下をさうさ  
 なくして笑がさうさう準とまのさう足さうに赤く脚の足  
 地りつは眉乃毛さうさうしてさうも腫とれあ  
 け相あ家人外陽上脘のくらあさひさうさう因因庭  
 ありさう寒くせらりりりさうさうさうさうさうさ

相さう之の 獨どく流りゅう



今相上  
まことやうくして。人の奴僕ぬわくとあり一生いせいは  
うたふとあり

八 為信之相

どうそ早<sup>の</sup>綾<sup>ちん</sup>糸<sup>じん</sup>糸<sup>ぢん</sup>糸<sup>ぢん</sup>為<sup>な</sup>信<sup>しん</sup>乃<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>みかお<sup>み</sup>似<sup>に</sup>たりと  
 之<sup>の</sup>ども<sup>も</sup>博<sup>はく</sup>列<sup>りつ</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>む<sup>む</sup>ど<sup>ど</sup>も<sup>も</sup>中<sup>ちゆう</sup>小<sup>せう</sup>為<sup>な</sup>人<sup>じん</sup>とい  
 ぬ<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>通<sup>つう</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>む<sup>む</sup>ど<sup>ど</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>旅<sup>り</sup>づ<sup>づ</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>白  
 々<sup>々</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こと<sup>こと</sup>通<sup>つう</sup>り<sup>り</sup>極<sup>ごく</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>て<sup>て</sup>博<sup>はく</sup>列<sup>りつ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>  
 や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>色<sup>しき</sup>愛<sup>あい</sup>ト<sup>ト</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>ひ<sup>ひ</sup>多<sup>た</sup>是<sup>ぜ</sup>わ<sup>わ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>鳥<sup>とり</sup>よ  
 り<sup>り</sup>精<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>智<sup>ち</sup>通<sup>つう</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>小<sup>せう</sup>舟<sup>ふね</sup>乃<sup>の</sup>か  
 さ<sup>さ</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ふ<sup>ふ</sup>波<sup>なみ</sup>よ<sup>よ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>ほ<sup>ほ</sup>ご<sup>ご</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>こ<sup>こ</sup>準<sup>じゆん</sup>  
 波<sup>なみ</sup>あり<sup>り</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>り<sup>り</sup>終<sup>しゆう</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>色<sup>しき</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>は  
 ふ<sup>ふ</sup>よ<sup>よ</sup>似<sup>に</sup>く<sup>く</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>生<sup>せい</sup>く<sup>く</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>び<sup>び</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>し  
 て<sup>て</sup>色<sup>しき</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>為<sup>な</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>大<sup>だい</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>大<sup>だい</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>

のま<sup>の</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>書<sup>しよ</sup>て<sup>て</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>  
 う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>色<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>  
 珠<sup>たま</sup>あり<sup>り</sup>耳<sup>みみ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>鼻<sup>はな</sup>梁<sup>りやう</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>大<sup>だい</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>  
 野<sup>や</sup>あり<sup>り</sup>これ<sup>これ</sup>為<sup>な</sup>信<sup>しん</sup>乃<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>大<sup>だい</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>相<sup>さう</sup>大<sup>だい</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>  
 之<sup>の</sup>ども<sup>も</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>  
 ハ<sup>ハ</sup>後<sup>ご</sup>り<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>書<sup>しよ</sup>て<sup>て</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>  
 一<sup>一</sup>色<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>終<sup>しゆう</sup>え<sup>え</sup>

落 俗 之 相



其九 盜賊之相

とうや盗賊が穿ハ骨格威ありセツまこといれ  
 うらその乃俗意と云うて盗乃中一不将と  
 しかた又その相と云ふも中一うらひあ一穿  
 物に云ふ盗賊の勢也その相いまるあとうらめ  
 て體をうつと盜賊を建て教らけく面乃るあわ  
 さまくゆる眉とがわて同ふまうつま前乃周り  
 似く晴ららうとを月つひいよむひていひて  
 之門て見ゆまを卵ふむと合と香よ  
 と縮めゆりぬめりては乃のり他は  
 まく髪うらとらん



相<sup>さう</sup> 之<sup>の</sup> 賊<sup>ぞく</sup> 盜<sup>とう</sup>



相

七五

あつた。身<sup>み</sup>の目<sup>め</sup>より色<sup>いろ</sup>をふ<sup>ふ</sup>孔<sup>あな</sup>あり涙<sup>なみだ</sup>堂<sup>どう</sup>に<sup>は</sup>乃<sup>の</sup>洞<sup>どう</sup>  
 かり教<sup>しやう</sup>あり<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>無<sup>む</sup>公<sup>こう</sup>肉<sup>にく</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>  
 外<sup>と</sup>に<sup>に</sup>存<sup>ぞん</sup>じ<sup>じ</sup>げ<sup>げ</sup>人<sup>ひと</sup>盜<sup>とう</sup>賊<sup>ぞく</sup>あり<sup>り</sup>ど<sup>ど</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>なり<sup>り</sup>  
 て利<sup>り</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>かり<sup>り</sup>竊<sup>せき</sup>盜<sup>とう</sup>乃<sup>の</sup>形<sup>かたち</sup>也<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>ある<sup>る</sup>下<sup>か</sup>へ<sup>へ</sup>

十七 婦人相

どうぞ婦人を姓氏りしるしをまじり幸せら  
 り、時に化まらざるをその相天はゆる  
 吾れを麗るるにふりてその相天はゆる  
 を相留相の男子の骨格よそをくはれ婦人  
 の面相顔実をて平くあはれ女ありて其の声  
 あり。唇で膝ゆるぎ膝ゆるぎて膝のこくは  
 吻下小唇さがるるは衣食うひくま乃命と  
 ひさやより眉ゆるぎ一文子よ首危とがりこる  
 媒はくしまゆるに相ありんといは笑まらざる  
 とりひては紙おひし眉根と楢影とひて人成

といものほ世女妓女乃相也骨あつらねく文節  
 たつこハ下線ありひりおらりりり力ゆらめき解  
 しあまおのまなり年先く鼻孔ゆる作  
 膝たつこハみか美綾あり膝乃目のこくはけ  
 膝はさかたておはなほてわが膝は毛あさハ下  
 線の中よりうつら下線也音をよに其あつらねく  
 笑て目のめ面はつらつら癖子と足底おひし  
 どれるあつらねく膝肩すけらつらつら膝通は  
 艱難辛苦して衣食あり牙歯を出入りの口吻  
 うらや鼻えらら車輪及ら髪みどろ眉毛  
 ろどくろくをさし一世あふあつらねく膝と

婦人の之相



乃てつらつらと寝入て覺ぐこゝろハ下<sup>ツカ</sup>鏡<sup>カミ</sup>みりて是也  
 衣<sup>イ</sup>食<sup>シ</sup>つらつらとく<sup>ク</sup>眉<sup>メイ</sup>とがりて正<sup>マサ</sup>徳<sup>トク</sup>と<sup>ト</sup>中<sup>ナカ</sup>  
 にあつたの他人<sup>トナリ</sup>人<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>契<sup>チ</sup>ふ<sup>フ</sup>負<sup>ネ</sup>の<sup>ノ</sup>相<sup>サマ</sup>也<sup>ナリ</sup>人<sup>ヒト</sup>中<sup>ナカ</sup>并<sup>ナ</sup>り  
 と<sup>ト</sup>唐<sup>カラ</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>志<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>藤<sup>フジ</sup>子<sup>コ</sup>と<sup>ト</sup>産<sup>ウマ</sup>相<sup>サマ</sup>也<sup>ナリ</sup>女<sup>メ</sup>目<sup>メ</sup>を<sup>ヲ</sup>り<sup>リ</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 先<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>して<sup>シ</sup>清<sup>キヨ</sup>身<sup>ミ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>と<sup>ト</sup>省<sup>シヨウ</sup>と<sup>ト</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>人<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>目<sup>メ</sup>み<sup>ミ</sup>み<sup>ミ</sup>  
 有<sup>ア</sup>あ<sup>ア</sup>と<sup>ト</sup>ふ<sup>フ</sup>わ<sup>ワ</sup>の<sup>ノ</sup>眉<sup>メイ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>捲<sup>マク</sup>頭<sup>カミ</sup>う<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup>れ<sup>レ</sup>膝<sup>ヒザ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 其<sup>ソノ</sup>の<sup>ノ</sup>化<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>丈<sup>ヤウ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>唇<sup>クサバ</sup>  
 印<sup>イン</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>に<sup>ニ</sup>衣<sup>イ</sup>食<sup>シ</sup>を<sup>ヲ</sup>入<sup>ル</sup>け<sup>ケ</sup>  
 志<sup>シ</sup>也<sup>ナリ</sup>女<sup>メ</sup>雄<sup>オス</sup>く<sup>ク</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>て<sup>テ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>足<sup>タビ</sup>ら<sup>ラ</sup>り<sup>リ</sup>ふ<sup>フ</sup>周<sup>シュウ</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>端<sup>ハタ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>  
 こ<sup>コ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>れ<sup>レ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>く<sup>ク</sup>縁<sup>ヘリ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>て<sup>テ</sup>契<sup>チ</sup>  
 新<sup>アタラ</sup>あり

人相

七二

十八又長也短相

それ又長乃相と云ふは顔あぐく面あぐく骨長く  
骨長く是長と云ふは又長也下骨格ゆへに  
骨あぐく清くは皮膚るるをいひあぐくは面也  
こゝの長乃相は又骨格枯らるる筋をうく  
垢つきるは横面負せあり骨あぐく足みどりき  
ハ横面あり骨短く足あぐくこゝの長横ありは  
面骨も足もこゝの骨肉ゆへに皮膚あぶ  
らげきこゝゆやふ中骨のひききてひら  
ゆるに骨をいひらるは老人のお也短也骨肉  
わらく又骨あぐくこゝの骨は下骨乃相あり

と長くして下骨こゝの骨もるる骨あり下長く  
と短くしてはつこゝの骨もるる骨也

十九又大又小相

それ又大乃相と云ふは眼眼耳は乃大なり也面  
平満ありて鼓満ありこゝの骨もるる相也  
大なる骨角なりこゝの骨もるる相也  
眼大なりと云ふは神氣乃大なり也骨大なり  
骨つらと云ふは骨大なり也骨大なり  
あぐく骨の口大なる骨もるる相也  
相也骨乃眼眼耳は乃小相ありこゝの骨もるる  
骨つらと云ふは骨小なり也骨小なり



しつゝ家ありあがりて破る家洞窟乃てくちなるこ  
まを喜ぶ事教乃おとし子息くさうだけ建信  
さるさるを形事教乃おとし面つひよつり毎  
毒心くさつてさき おぼろしくいして ころを性事教の  
相とあづく大常教乃相續さる身と実し保さる  
一狭家門とやわつと

廿六極六極相

とくそち極くつひのびたあして段小なる教出  
てせむく目小あして光る耳小あしてうさく  
鼻小けして梁さくは小けく尖さるけち極わ  
ふみのほあ命下うく く 魁きてあ子ふとあま

眼あし は 六極といふは教乃角せらつり夫  
中くわつとあは胸背たようさくさまなうこ  
あまうさか は 破事く あ のふと は けさるくを  
あは は 眼 さ け う け さ せ ん と ら ち あ け て 見 ふ け さ せ  
の鼻 う け さ せ も せ あ り 六 極 は 同 よ 光 あ け こ 乃 は 相  
あつもの は 一生 う ち ら 僕 隸 たり 一 月 は わ 毎 日  
ふま あ け さ り ん

廿三執之式

とくそ人相とくあまな は 執乃は式あつりつと  
家一 は 威 伏 と は べ し 人 能 て 服 夫 さ ら の い  
あ は び さ り い 極 さ り と け し 夫 去 後 あ け て 威 わ り







まじりのほろぐく耳ふらふといふとのりく  
 一と威ありはるるの相也の黒白乃ら  
 此のあはれ目の内らやあてを器に備  
 そははも人器ありて物一耳の大小を  
 輪郭一耳の介一毎一に白をまみ面より  
 まじふよ對して一耳みま眉よりも  
 よのかり輪厚くあはれをいして孔乃ら  
 長毫あり孔小くして痛ありぬるを  
 眼ありはるるの耳は似く痛くとも  
 好とまじらなくあはれよはまじら  
 及之のまじらなくあはれよはまじら

さか英絨孤猪の相也○鼻のゆへに  
 えまみして肉あり痛よあはれをい  
 の相なりはるるの鼻はゆへに  
 及之のまじらなくあはれよはまじら  
 一と威ありはるるの相也の黒白乃ら  
 上乃唐より下乃唐なりはるるの相也  
 及之のまじらなくあはれよはまじら  
 と名づくは府より上より下より  
 と月角より上より下よりあはれをい

と多く比國乃ちたんと地府とありてこのさねお  
 らうがまじい共て多うまじい因ありて寄と寄  
 るり後好くは。さきは揚せあうとさゆへに勝あ  
 背厚腔いりく半くと骨ありつまは腹あし  
 て下ふま勝乃下よ因揚ありて腎の半よ  
 骨く肉ありまよまよはこれ共き人の相あり勝  
 りきくして勝乃く背うとく板乃くく母  
 て女甲雅ありまよて竹乃板のく胸り背あ  
 兼よはり腹いよまあひまりて背の腹乃く  
 勝は後にしてよまじいして寄て腎のくま  
 とみめて共國うとくして寄とるに候々く

るるは英後乃相也○ハみはまはとらるへしこの  
 肉あやふふらあうくうとひ指いそくやうら  
 り指あぐ掌手なり腹の扁ありて肘のあ  
 く是乃甲小肉あり底よ紋あり底ありま人  
 乃相也まよまよは英後也○九まはあま  
 へし考へりしは丹田あり腎トあり考はま  
 て腎まままきくや由婦人乃考ははくひくま  
 とうらがまくくまらへこれ書まの考ありま  
 く稠子よありあり一人あひて考ららまま  
 して男の考あり考らまけて破竹乃くま  
 げて頂あり考らまらまみふ天折英後の相

○十少は形とかんてみゆと類平一くその形ら  
 毛乃矯虎乃跨鶴乃角り鳥乃うごつ鳥骨  
 のぞまも柳子れゆぐくたつみか属を志  
 相有り或ハ顔うあごまご勝乃こも男物くし  
 物のこもどりのりこどりてまのこも物さくあ  
 て鹿乃こももくゆも福也といこもみ  
 さ美織のこもは是也如とい木火也金水也金水わ  
 生するはる向く木もわすするは腹あもわすん  
 子ハ肥大も生いふい尖ちもわすするハ厚一  
 止れりかまよめふに属も也こもよそむいひま  
 後也言け十親の式ともつこもす又あ

と海一。一概みーてつらうべ

十二宮

一少は命言いらくお眉乃福山宿のよりあり  
 老りうあつー色種のとこくならんは字もた  
 通し山宿平儀るるは福祐ありて寿まが歌  
 乃能理川の字れこもるに位らんにのびふ  
 山宿なるあけららつらものなむらに美を也あ  
 眉生つごそ山宿をあさぐハ下儀るり教せご  
 肩抄るは結あをえうーすいやは  
 二少は結帯一をうー鼻へこも物命の位有り  
 尚乃ごく書うふそのえまめしてまこく印也

しと云はるは一生杖あり 尊は首のくく鼻  
楊まがらも鼻のくく杖のくく尖るるは尖る  
あり。孔作さくはを船のくく尖たしあをた  
電をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
く尖るるは杖とひて秘さくくくくくくくくく  
と云はるは杖あり

と云はるは杖あり 尊は首のくく鼻  
楊まがらも鼻のくく杖のくく尖るるは尖る  
あり。孔作さくはを船のくく尖たしあをた  
電をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
く尖るるは杖とひて秘さくくくくくくくくく  
と云はるは杖あり

むく後よ極あり 思勝るるのくくくくくくくくく  
りゆくも也三陽三陰のくくくくくくくくく  
あると田舎あるて男とくくくくくくくくく  
又少は男女のくくくくくくくくくくくくく  
と云はるは杖あり 尊は首のくく鼻  
楊まがらも鼻のくく杖のくく尖るるは尖る  
あり。孔作さくはを船のくく尖たしあをた  
電をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
く尖るるは杖とひて秘さくくくくくくくくく  
と云はるは杖あり

一、つごころは世をわきて、つごころ ぬ僕母うらみ  
七、あは妻のたまそれ位さい 為な あり  
あつて好門こうもん ともいふありうなり  
とつて、あまの御徳ごとく 香儀かうぎ の書とたまた、あまの御徳 眞尾  
端はな まらして平満へいまん たるは書とめて、平満 杖とほう  
眞尾まご 一、ぬおちさハ、ぬおちさ 悪あく ねと、悪ね 書つわん、書つわん 杖  
う、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
つに、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
女、女 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
う、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
相あり、相 あつて、あつて 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
杖とほう、杖とほう 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう

その一、つごころは世をわきて、つごころ ぬ僕母うらみ  
八、あは妻のたまそれ位さい 為な あり  
あつて好門こうもん ともいふありうなり  
とつて、あまの御徳ごとく 香儀かうぎ の書とたまた、あまの御徳 眞尾  
端はな まらして平満へいまん たるは書とめて、平満 杖とほう  
眞尾まご 一、ぬおちさハ、ぬおちさ 悪あく ねと、悪ね 書つわん、書つわん 杖  
う、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
つに、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
女、女 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
う、杖 侍さむらい たる、侍 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
相あり、相 あつて、あつて 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう  
杖とほう、杖とほう 眞尾まご たるは、眞尾 平満へいまん たるは、平満 杖とほう

小神光あつたは声と下みせえそ官福さうめ  
中ふらりとおらつらふハ下賤なり  
十少は福徳のええその位天念あり  
地周よりて肉あるは大き福徳の相也  
心く願ふくは福徳大なり眉ひさう目ら  
慶耳反てどどいさうり天念らむさハ下  
困あり  
土少は逆後のええそ乃位まつこの下つて天念  
乃下ふわりささうに益てたう平あまう  
あまひあつたものはあまうえあつたあまう  
も今やび眉あまうり生念家世つこうあま

くかめらなは一あま福多たあまとやありの福あま  
うりてもあまらつた  
十二少は相徳られあまの位乃平徳とらるも  
又あまいえてさういあ福さうえ威徳さうく人  
のさあまさうさうは三位と下ひさうく骨格  
精神はくあで珠と剛は御て水さうさうく  
あま少はあまてあまのさうさうそのあまはあ  
まれ九さうのあまをその徳はあまあけま  
らうらあまのあまをさうさうさうさうさう  
相徳さうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

大目

大目

しどきて十二文乃中子相強と申してその人  
乃らとあるべしと申して其れを晴らりてして  
晴ありんば子強ふと申せば眼うとていふあま  
善むあまはまをいしうりたて相強よりい  
どと申たれとあるためと若るよわひしに非とい  
りしをて是と申すあふ外乃相とのけり  
あこひて無お城と云人の法徳と云とあるを  
しと天理より申す向の福とては法徳と云  
人面總部之相也  
それらの面は面部の位とて申しては是乃精  
氣を運ぶものなりと申すは是乃精氣を運ぶものなり

形とありて二月一世の者ありとていふ面相  
はあてて定まるるを好むに面ありていふ面相  
ありとて定まるるを好むに面ありていふ面相  
若しそれより細く来て是の極のしとて申すは  
若しそれより細く来て是の極のしとて申すは  
二世族一腮の骨大なりと申すは  
のうしあまをいしうりたて相強よりい  
る面は面相とて申すは是乃精氣を運ぶものなり  
そは面相の一生を定むるあり





